



# 特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合 2009 年度定時総会

日時：2009年4月20日（月）15:15～16:45

会場：山上会館（東京大学 本郷キャンパス） 大会議室

開会

## 【議事】

1. 第1号議案： 新役員の選任 p. 1
2. 第2号議案： 2008年度事業報告および2009年度事業計画案 p. 6
3. 第3号議案： 2008年度収支決算報告および2009年度予算案 p.35

## 【新役員紹介】

### 【2008年度活動報告】

- (1) 「学としての知の統合委員会」報告  
委員長：木村英紀
- (2) 「アカデミック・ロードマップ委員会」報告  
委員長：佐野 昭
- (3) 「横断型人材育成推進調査研究会」報告  
主査：佐野 昭
- (4) 「医薬品インターフェース調査研究会」報告  
副主査：大倉典子
- (5) 「経営高度化プロジェクト」報告  
リーダー：椿 広計

閉会

■懇親会 17:00～18:00 参加費有料（お一人様 3,000 円）※会場は、談話ホール

特別講演会：13:30～15:00

講演 「今日の科学技術/イノベーション政策の論点」(仮題)

相澤益男氏(内閣府総合科学技術会議常勤議員)

相澤益男議員との会員学会会長懇談

## 目 次

### 【議事】

1. 第1号議案：新役員の選任
  - \*横幹連合 2009（平成 21）年度 役員（案） p. 1
  - \*新役員候補の略歴 p. 2
  
2. 第2号議案：2008（平成 20）年度事業報告および 2009（平成 21）年度事業計画案
  - 2-1. 事業報告および事業計画案 p. 6
    - \*第3回横幹コンファレンスにおける講演発表の推薦のお願い p. 10
    - \*第3回 横幹連合コンファレンス 参加募集 p. 12
  
  - 2-2. 常置委員会の報告および計画
    - 2-2-1. 企画・企画・事業委員会 p. 13
    - 2-2-2. 総務・会員委員会 p. 15
    - 2-2-3. 学術・国際委員会 p. 16
    - 2-2-4. 産学連携委員会 p. 19
    - 2-2-5. 広報・出版委員会 p. 21
    - 2-2-6. 会誌編集委員会 p. 22
  
  - 2-3. 委員会・調査研究会の報告および計画
    - 2-3-1. アカデミック・ロードマップ委員会 p. 25
    - 2-3-2. 医薬品インタフェース調査研究会 p. 28
    - 2-3-3. 横断型人材育成推進調査研究会 p. 30
    - 2-3-4. 社会デザイン調査研究会 p. 33
  
3. 第3号議案：2008（平成 20）年度収支決算報告および 2009（平成 21）年度予算案
  - \*2008（平成 20）年度 横幹連合 収支計算書 p. 35
  - \*2008（平成 20）年度 貸借対照表 p. 36
  - \*2008（平成 20）年度 横幹連合会計 利益処分案 p. 37
  - \*監査報告書 p. 38
  - \*2009（平成 21）年度横幹連合予算 p. 39

### 【2008 年度活動報告】

- \*経営高度化プロジェクト報告

## 1. 第1号議案:新役員の選任

## 横幹連合 2009(平成21)年度 役員(案)

役職	#	氏名	所属	備考 ★印が新役員候補
会長	1	木村英紀	(独)理化学研究所	留任
副会長	1	舘 暲	東京大学	留任
副会長	2	原山 優子	東北大学	★
理事	1	青木 克己	東海大学	留任
理事	2	榎木 哲夫	京都大学	留任
理事	3	杉江 俊治	京都大学	留任
理事	4	高橋 進	東海大学	留任
理事	5	出口 光一郎	東北大学	留任
理事	6	西村 千秋	東邦大学	留任
理事	7	梅干野 晁	東京工業大学	留任
理事	8	松井 正之	電気通信大学	留任
理事	9	山中 敏正	筑波大学	留任
理事	10	山本 正宣	(株)シグナルコンサルタント	留任
理事	1	青木 和夫	日本大学	★
理事	2	大熊 和彦	東京工業大学	★ (再任)
理事	3	帯川 利之	東京大学	★ (再任)
理事	4	太田 敏澄	電気通信大学	★
理事	5	田村 義保	統計数理研究所	★
理事	6	椿 広計	統計数理研究所	★ (再任)
理事	7	平井 成興	産業技術総合研究所	★
理事	8	布川 博士	岩手県立大学	★
理事	9	船橋 誠壽	日立製作所	★
理事	10	山崎 憲	日本大学	★ (再任)
監事	1	藤井 眞理子	東京大学	留任
監事	2	鈴木 久敏	筑波大学	★

## 新役員候補の略歴

### 【理事】

#### ■原山 優子 氏

現職：東北大学大学院工学研究科 技術社会システム専攻 教授

専門分野：科学技術政策論、高等教育論

略歴：

- 1973年6月 ブザンソン大学理学部数学科 卒業
- 1996年6月 ジュネーブ大学教育学博士課程 修了 (学術博士)
- 1997年12月 ジュネーブ大学経済学博士課程 修了 (学術博士)
- 1992年10月 ジュネーブ大学経済学部 助手
- 1998年1月 ジュネーブ大学経済学部 助教授
- 2001年4月 独立行政法人経済産業研究所 研究員
- 2002年4月 東北大学大学院工学研究科 教授 (現在に至る)
- 2006年1月 総合科学技術会議 非常勤議員 (2008年1月まで)
- 2008年10月 仙台市教育委員会 教育委員 (現在に至る)

#### ■青木 和夫 氏

現 職：日本大学理工学部・教授

専門分野：人間工学, 保健管理学

略 歴:

- 1974年 東京大学医学部保健学科卒業
- 1976年 東京大学大学院医学系研究科保健学専門課程修士修了
- 1979年 東京大学大学院医学系研究科保健学専門課程博士単位取得退学
- 1979年～1992年 東京大学医学部助手 (保健管理学)
- 1985年 保健学博士 (東京大学)
- 1992年～1996年 日本大学理工学部助教授 (医療・福祉工学)
- 1996年～ 日本大学理工学部教授 (医療・福祉工学), 現在に至る

#### ■大熊 和彦 氏

現 職：東京工業大学 統合研究院 イノベーションシステム研究センター 特任教授

専門分野：科学技術政策、研究開発マネジメント、政策・研究評価

略 歴：

- 1968年3月 東京大学工学部卒業
- 1968年4月～1976年3月 東京大学大学院工学系研究科在籍
- 1977年3月 工学博士号取得 (東京大学)
- 1977年5月～1982年7月 (株)オストランド 主任研究員
- 1982年4月～1984年3月 (財) 未来工学研究所 客員主任研究員
- 1983年12月～2006年3月 (財) 政策科学研究所 主席研究員、研究部長・理事 (併任)
- 2005年10月～ 東京工業大学 特任教授 (2006年4月より専任)

### ■帯川 利之 氏

現 職：東京大学 生産技術研究所 教授

専門分野：精密工学（切削加工、研削加工）

略 歴:

1980年3月 東京工業大学 大学院 理工学研究科 博士課程終了

2004年4月～2007年3月 東京工業大学 大学院理工学研究科 機械制御システム専攻 教授

2007年4月～ 東京大学 生産技術研究所 教授

この間、2002年～2006年（社）精密工学会 理事、2006年～（社）精密工学会 監事

### ■太田 敏澄 氏

現職：電気通信大学大学院情報システム学研究科社会知能情報学専攻 社会情報システム学講座・教授

専門分野：社会情報システム学、組織知能工学、知的分散処理

略歴

1977年3月 東京工業大学理工学研究科博士課程修了（工学博士）

1977年4月 東京工業大学大学院総合理工学研究科助手

1983年4月 豊橋技術科学大学工学部講師、助教授を経て、

1993年4月 電気通信大学大学院情報システム学研究科教授、現在に至る。

この間、

1981年～1982年 ペンシルバニア大学ウォートン校客員研究員

### ■田村 義保 氏

現 職：統計数理研究所データ科学研究系・教授／副所長

専門分野：計算統計学

略 歴:

1981年～1985年 統計数理研究所第5研究部研究員

1985年～1986年 統計数理研究所予測制御研究系助手

1986年～1997年 統計数理研究所統計データ解析センター助教授

1997年～2005年 統計数理研究所統計計算開発センター教授

2005年～現在 統計数理研究所データ科学研究系教授

2004年～現在 副所長（併任）

1989年～1997年 総合研究大学院大学助教授（併任）

1997年～現在 総合研究大学院大学教授（併任）

### ■椿 広計 氏

現 職：情報・システム研究機構 統計数理研究所 リスク解析戦略研究センター長

データ科学研究系多次元データ解析グループ 教授

筑波大学 大学院ビジネス科学研究科 教授

専門分野：応用統計学

略 歴:

1982年 東京大学 大学院 工学系研究科 計数工学専攻 修士課程修了

1982年～1987年 東京大学 工学部 助手

1987年～1997年 慶應義塾大学 理工学部 専任講師

1997 年～2000 年 筑波大学 社会工学系 助教授  
2000 年～2004 年 筑波大学 社会工学系 教授  
2004 年～現在 筑波大学 大学院 ビジネス科学研究科 教授  
2005 年～現在 統計数理研究所リスク解析戦略研究センター長  
2007 年～現在 統計数理研究所データ科学研究系教授

#### ■平井 成興 氏

現 職：千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 副所長  
専門分野：知識工学、知的遠隔操作ロボット、ハンドアイシステム  
略 歴:

1978 年～ 工業技術院電子技術総合研究所（現産業技術総合研究所）入所 制御部  
1986 年～ 電子技術総合研究所 知能システム部 対話システム研究室長  
1992 年～ 電子技術総合研究所 知能システム部 自律システム研究室長  
1999 年～ 電子技術総合研究所 知能システム部長  
2001 年～ 産業技術総合研究所 知能システム研究部門 副部門長  
2004 年～ 産業技術総合研究所 知能システム研究部門 部門長  
2009 年～ 千葉工業大学 未来ロボット技術研究センター 副所長

#### ■布川 博士 氏

現 職：岩手県立大学 ソフトウェア情報学部 教授  
専門分野：情報科学  
略 歴:

1983 年 4 月 東北大学大学院工学研究科博士前期 プログラム理論に関する研究  
1985 年 4 月 東北大学大学院工学研究科博士前期課程 プログラムの処理系に関する研究  
1988 年 4 月 東北大学電気通信研究所助手 コンピュータソフトウェアおよびインターネットに  
関する研究  
1989 年 4 月 (財) 仙台応用情報学研究振興財団研究員 コンピュータソフトウェアおよび  
インターネット技術の地域企業への移転に関する研究, 現在, 理事・研究主幹  
1994 年 4 月 宮城教育大学助教授 コンピュータソフトウェアおよびインターネットの社会的応用  
に関する研究  
1998 年 4 月 岩手県立大学県立大学ソフトウェア情報学教授 コンピュータソフトウェアの応用  
およびそれによるサービス創製に関する研究, 現在に至る  
1988 年 4 月 東北大学電気通信研究所助手 (1994 年 3 月まで)  
1989 年 4 月 (財) 仙台応用情報学研究振興財団研究員, 現在, 理事・研究主幹  
1994 年 4 月 宮城教育大学助教授 (1998 年 3 月まで)  
1998 年 4 月 岩手県立大学県立大学ソフトウェア情報学教授  
2000 年 6 月 (株) コミュニケーションテクノロジーズ取締役 (2006 年 6 月まで)

#### ■松橋 誠壽 氏

現 職：(株) 日立製作所 システム開発研究所 主管研究長、(独) 国立環境研究所 監事  
専門分野：システム制御

略 歴:

- 1969 年 京都大学大学院工学研究科修士課程(数理工学専攻)修了
- 1969 年 (株)日立製作所入社 中央研究所配属
- 1973 年 同社システム開発研究所発足にともない転属
- 1990 年 工学博士 (京都大学)
- 1996 年～現在 (株)日立製作所システム開発研究所 主管研究長
- 1996 年～1999 年 東京大学大学院数理科学研究科 客員教授
- 2003 年～2008 年 京都大学情報学研究科 客員教授
- 2007 年～現在 (独)国立環境研究所 監事

■山崎 憲 氏

現 職： 日本大学 生産工学部 教授

専門分野： 電気電子工学、特に音場の可視化と数値シミュレーション、物体の同定シミュレーション、  
快適な音空間の創造、医用機器の設計シミュレーション等に從事

略 歴:

- 1972 年 日本大学大学院生産工学研究科修士課程電気工学専攻修了
- 1972 年～ 日本大学に奉職 現在に至る
- この間 1989 年～1992 年 英国 University of Southampton 客員研究員
- 1993 年 岡山大学から工学博士の学位を授与

【監事】

■鈴木 久敏 氏

現 職： 筑波大学 理事・副学長

専門分野： 経営科学、オペレーションズ・リサーチ、ビジネスゲーム、経営科学教育

略 歴:

- 1970 年 3 月 東京工業大学理工学部制御工学科卒業
- 1976 年 3 月 東京工業大学理工学部研究科経営工学専攻単位取得退学
- 1976 年 4 月 東京工業大学工学部経営工学科 助手
- 1988 年 1 月 工学博士(東京工業大学)
- 1988 年 4 月 筑波大学 社会工学系 助教授
- 1993 年 4 月 筑波大学 社会工学系 教授
- 2001 年 4 月 同大学 ビジネス科学研究科長、教授
- 2002 年 4 月 同大学 企画調査室長、ビジネス科学研究科教授
- 2004 年 4 月 同大学 ビジネス科学研究科長、教授
- 2006 年 4 月 同大学 大学研究センター長、ビジネス科学研究科教授
- 2009 年 4 月 同大学 理事・副学長、現在に至る。
- この間、ブラジル国立宇宙研究所、米国MIT、米国ワシントン大学の客員研究員

## 2. 第 2 号議案:2008(平成 20)年度事業報告および 2009(平成 21)年度事業計画案

### 2-1. 事業報告および事業計画案

#### (A) 2008 (平成 20) 年度事業報告

##### [1] 2008 (平成 20) 年度の概況

2008 (平成 20) 年度は、新会長、新組織でスタートし、充実した活動の 1 年であった。前年度に現われてきた横幹活動の基本方針についての課題 (分かりやすい横幹科学技術の定義、産学連携のあり方、会員学会との相互交流等) にも精力的に取り組み、一定の成果を得ることができた。また、横幹活動成果の外部への発表も、各種のイベント、会誌、ホームページ等を通じて、活発に行うことが出来た。

会員の異動は、日本計算機統計学会、社会経済システム学会、の 2 学会の退会により、本日現在の会員学会数は 40 学会である。

財政面では、収支差額は予算よりも好転しているが、単年度で見ると赤字であり、事業のより一層の活発化や経費削減が次年度の重要課題である。

2008 (平成 20) 年度の主な活動は以下の通りである。

- (1) 第 2 回横幹連合総合シンポジウムの開催 (12 月)
- (2) 第 3 回横幹連合コンファレンスの準備 (12 月～)
- (3) 横幹連合会員学会会長との懇談 (6～8 月)
- (4) 横幹連合会長懇談会の開催 (12 月)
- (5) 経済産業省から「アカデミック・ロードマップ」作成を受託 (10 月～3 月)
- (6) 調査研究会活動の推進
  - ① 医薬品インタフェース調査研究会
  - ② 横断型人材育成推進調査研究会
  - ③ 社会デザイン調査研究会
- (7) 会誌「横幹」の刊行 Vol.2 No.1 (4 月)、Vol.2 No.2 (10 月)
- (8) 横幹連合ニュースレター No.13～No.16 の発行
- (9) 横幹連合・統数研・産総研合同ワークショップの開催 (1 月)
- (10) 横幹科学技術の定義の提案 (学としての知の統合委員会)
- (11) 横幹技術協議会との連携活動
  - ① 第 17 回、第 18 回横幹技術フォーラムの開催
  - ② 共通プロジェクト (企業内 SNS) の推進
  - ③ 横断型人材育成推進調査研究会での共同作業
  - ④ プロジェクト活動 (経営高度化) の推進
  - ⑤ 連携活動推進のための合同検討会の開催

##### [2] 第 2 回横幹連合総合シンポジウム

日時・場所：2008 年 12 月 4～5 日、筑波大学東京キャンパス (東京・大塚)

メインテーマ：横幹技術の社会的使命：高付加価値社会の実現に向けて

- |        |               |                            |
|--------|---------------|----------------------------|
| 第 1 日目 | 特別企画          | 「横幹連合アカデミックロードマップ」         |
|        | 基調講演          | 「広義のもの造り概念と産業競争力」(藤本隆宏氏講演) |
|        | パネル討論         | 「「コトづくり」による「モノづくり」イノベーション」 |
| 第 2 日目 | オーガナイズド・セッション |                            |
|        | トラック A        | 「リスク・安全研究と社会」              |
|        | トラック B        | 「人にやさしい「モノづくり」「コトづくり」」     |



トラックC 「観る・眺める・そして考える」－高付加価値を生み出す技術－  
トラックD 「横断型・融合型人材育成」

参加者：約200名

[3] 第3回横幹連合コンファレンス

日時・場所：2009年12月3～4日、東北大学 片平さくらホール（仙台市青葉区）  
メインテーマ：コトづくりの可視化  
詳細 →参加募集、講演発表の推薦のお願い

[4] 横幹連合会員学会会長との懇談と横幹連合会長懇談会

2008（平成20）年6～8月の間に、横幹連合会員学会の会長・幹部の方々と横幹連合会長・副会長が学会ごとに懇談を行い、意見交換を行った。その結果は、会長懇談会（2008（平成20）年12月4日開催）で会員学会会長各位へ報告を行った。会員学会のご意見を今後の横幹連合活動に活かしていく。

[5] アカデミック・ロードマップ

経済産業省事業の事業に応募し、採択された（落札価格約700万円）。統括委員会の下、委員約35名が3つのワーキンググループ「知の統合WG」、「社会システムのシミュレーション・モデリング技術WG」、「人間生活支援WG」に別れ調査研究を進め、3月末に報告書を完成、刊行した。

[6] 横幹技術フォーラムの開催

横幹技術協議会と連携して、2つの横幹技術フォーラムを開催した。  
◇第18回横幹技術フォーラム（2009/1/7、学士会館）  
シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合  
～シリーズ第1回 企業パフォーマンスを評価する～  
◇第19回横幹技術フォーラム（2009/3/30、筑波大学 東京キャンパス）  
シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合  
～シリーズ第2回 エンタープライズリスクマネジメント～

[7] 横幹連合・統数研・産総研合同ワークショップ

横幹連合の理念と類似の考え方を持つ産業技術総合研究所シンセオロジー編集委員会及び統計数理研究所との連携の強化を目指して、2009年1月19日（月）に産総研臨海副都心センター本館において、三者の活動理念及び研究事例を交流する合同ワークショップを開催した。横幹連合から約10名を含む約20数名の参加者を得て、活発に議論を展開し、三者の目指す方向が極めて近いことを確認し合った。今後も継続して合同ワークショップを開催する方向で意見が一致した。

[8] 横幹科学技術の定義の提案

学としての知の統合委員会が年間活動を通して議論した「横幹科学技術」の定義については、現状の草案は以下の通りである。

「横断型基幹科学技術とは、論理を規範原理とし、自然科学、人文・社会科学、工学などを横断的に統合することを通して異分野の融合を促し、それにより新しい社会的価値の創出をもたらす基盤学術体系である」

[補足説明]

たとえば、社会、人間、環境、生命、経営、組織マネジメントなどを扱うために生み出された、統計学、シミュレーション学、最適化手法、情報学、設計学などの学術体系である。

(B) 2009 (平成 21) 年度事業計画案

[1] 2009 (平成 21) 年度の方針

2009 (平成 21) 年度は、前年度の活動成果を踏まえ、以下の活動を推進する。

これらの活動により、横幹科学技術にかかわる学術の研究を盛んにし、その普及をはかり、またその成果を社会に還元する。

- (1) 横幹連合の掲げる理念を具体的な社会施策に反映させるための活動
- (2) 横幹科学技術の学問としての確立に向けた活動体制強化
- (3) 産学連携活動の強化、特に横幹技術協議会との連携の強化
- (4) 会員学会との連携活動の拡大
- (5) 横幹連合活動の社会への浸透の拡大
- (6) 事業の活発化と経費削減による横幹連合財務体質の強化

[2] 2009 (平成 21) 年度事業計画 →次ページ

## 2009(平成 21)年度横幹連合事業計画

事業名	事業内容	実施 予定 日時	受益対象者 の範囲及び 予定人数
調査研究 事業(1)	<b>&lt;第3回横幹連合コンファレンス&gt;</b> これまでの、コンファレンス、総合シンポジウムの成果をさらに発展させ、多分野のコラボレーションにより、共通の問題へ横幹的にアプローチする。今年のテーマは「コトづくりの可視化」。	12月	学界・産業界から広く参加を募る 250名
調査研究 事業(2)	<b>&lt;学術・国際委員会&gt;</b> 前年度の「学としての知の統合委員会」の活動をさらに掘り下げる。横幹科学技術情報を英文で発信し、国際活動を始める。	1回 /月	成果は 一般に公表
調査研究 事業(3)	<b>&lt;調査研究会&gt;</b> 横幹的アプローチを必要とする共通的社会的な課題や産業界の課題を取り上げ、複数分野の専門家によるチームを結成し、調査研究を行い、成果を公表する。	4月～	報告書・フォーラム等で、 一般に公表
調査研究 事業(4)	<b>&lt;プロジェクト活動&gt;</b> 横幹技術協議会と連携して、企業経営に資する横幹的アプローチ課題（経営高度化）を多分野の専門家と企業関係者で連携して研究する。	4月～ 3月	産業界の 経営幹部
調査研究 事業(5)	<b>&lt;合同ワークショップ&gt;</b> 前年度に続き、統数研・産総研との連携をより密にして、横幹的課題への取り組みを深耕する。		ワークショップ等 で一般公開
調査研究 事業(6)	横断型研究プロジェクト助成：複数学会分野にまたがる研究プロジェクトを公募し、助成を行う。	4月～	学界
調査研究 事業(7)	<b>&lt;受託調査研究&gt;</b> 複数学会分野にまたがる研究プロジェクトを受託する。	4月～ 3月	官・産・学
プロジェクト 事業	<b>&lt;プロジェクト事業&gt;</b> 産業界から提起される「横幹的アプローチを必要とする実問題」に対して、多分野の専門家からなるチームを編成して解決にあたる。 (実費徴収)	随時	一般企業
普及啓蒙 事業(1)	<b>&lt;会誌「横幹」の発行&gt;</b> 横幹科学技術をさまざまな角度から掘り下げ、また多くの分野の方への理解を深めるため、会誌を刊行する。年2回発行。	4月 10月	一般者
普及啓蒙 事業(2)	<b>&lt;横幹技術フォーラムの開催&gt;</b> 主に産業界を対象に、横幹技術の先端研究成果を第一線で活躍する研究者が解説する。また、産学の対話の場としても活用する。	隔月	産業界の中 核技術者・ 中核実務家
広報事業 (1)	<b>&lt;ホームページ&gt;</b> ホームページを管理運営し、横幹科学技術の解説、イベントの案内、技術討論、会員学会との交流などを行う。英文化を進める。	4月～	一般者
広報事業 (2)	<b>&lt;パンフレット・ニュースレター等による広報&gt;</b> 横幹連合の活動の紹介、横幹連合会員学会の活動の紹介、各種イベントの周知・広報等を行う。	随時	一般者
その他	<b>&lt;関連団体との連携事業&gt;</b> 主として横幹技術協議会との連携による普及啓蒙事業を行う。	随時	一般者

横断型基幹科学技術研究団体連合

会員学会 会長、代議員各位

横幹連合 会長 木村 英紀

第 3 回コンファレンス実行委員長 出口 光一郎

プログラム委員長 能勢 豊一

### 第 3 回横幹コンファレンスにおける講演発表の推薦のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より横幹連合の活動にご支援賜り、感謝申し上げます。ご高承のとおり本年 12 月 3 日（木）～5 日（土）の 3 日間、仙台市におきまして、第 3 回横幹連合コンファレンスを開催いたします。横幹連合の使命は、自然科学と並ぶ技術の基礎として「横断型基幹科学」の発展と振興であり、従前のモノづくりを超えた新しい「コトづくり」を提唱して参りました。今回のコンファレンスでは、4 年前に開催されました第 1 回横幹連合コンファレンスでのコトづくり長野宣言、2 年前に開催されました第 2 回横幹連合コンファレンスでのコトづくりによるイノベーションの推進（京都宣言）を受け、統一テーマを「コトづくりの可視化」とし、コトづくりの深化の見える形での議論展開の場となることを目指しております。

今日の社会が抱える多くの現実的課題に向き合う時、各会員学会がそれぞれ背景として持っている特定の領域を超えて知識や成果を用いることが不可欠となっています。そのような背景のもとに、2 年に 1 度開催されます横幹連合コンファレンスは、横幹技術の「深化」の役割を担っており、各会員学会の学問領域での現実的課題と知識を共有化・普遍化する場であると同時に会員学会間の交流の場となっています。

今回のコンファレンスでは、(1) 特別セッション、(2) もののつくり方における可視化、(3) 失敗の可視化、(4) 人づくりからコトづくりへ、(5) コトづくりに情報を活かす、(6) コトづくりにもとづく新市場、(7) 環境問題におけるコトづくりの可視化、の 7 つの領域を企画セッション領域として用意いたしました。このほかにも一般講演を公募いたします。

つきましては、横幹連合会員学会におきまして、上記の企画にご協力をいただけますとともに、一般講演として貴学会からの研究論文の講演発表をご推薦いただきたくお願いいたします。特に、貴学会における「コト作りの可視化」に当たる事例について、貴学会を代表する講演を少なくとも 2 件、ご応募いただければ幸いです。1 つのセッション中ではできるだけ異分野の学会の融合によるコトづくりの進化が図られるようプログラムを構成し、実りあるコンファレンスとしていきたいと考えております。

講演の申し込み、論文原稿の作成、投稿などの受け付け方法は、一般講演公募と同一で、添付資料に記載しておりますが、特に、学会からの推薦の講演については、下記・別紙のように、予め、5 月末までに推薦のご連絡を頂きたいと思っております。

関連最新情報を、コンファレンスホームページ <http://www.trafst.jp/conf2009/> に掲載してまいりますので、ご参照ください。

敬具

添付資料

- ・ 第 3 回横幹連合コンファレンス参加募集

本件に関する問合せ・ご連絡先：

横幹連合事務局 電話・fax：03-3814-4130

電子メール：[conf2009@trafst.jp](mailto:conf2009@trafst.jp)

<別紙> 第3回横幹コンファレンスにおける講演発表の学会推薦の手引き

【日程】

講演の申し込み、論文原稿の作成、投稿などの方法は、一般講演公募と同一ですが、各学会からの推薦の論文発表については、1つのセッション中ではできるだけ異分野の学会の融合によるコトづくりの進化が図られるようプログラムを構成していきたいと考えておりますので、下記日程にて、講演申し込み、原稿提出をお願いいたします。

● 各会員学会からの推薦論文講演の連絡

- ・学会名、講演者名、講演仮題
- ・各講演者の連絡先
- ・上記の7つの企画領域(1)～(7)に近い話題のものであるときはその番号
- ・講演発表の意図(50～100字程度)

2009年5月30日までに [conf2009@trafst.jp](mailto:conf2009@trafst.jp) までにお送りください。

● 各講演者による講演申込 2009年6月26日～7月24日

<http://www.trafst.jp/conf2009/> よりオンライン申込

- (1)表題(和文・英文)
- (2)著者全員の氏名・所属
- (3)講演要旨(100～200字程度)
- (4)キーワード(最大3個)
- (5)講演者連絡先

をフォームに従って、各講演者から入力して頂きます。申込方法は「横幹連合コンファレンス」ホームページ(<http://www.trafst.jp/conf2009/>)でも案内をします。

●講演原稿提出期間：2009年9月4日～9月27日(予定)

J-Stage上のページ(各講演者当てに別途通知します)に、論文原稿をA4用紙2、4、6ページのいずれかでPDFファイルにて投稿頂きます。論文原稿執筆要項、送付先は、「横幹連合コンファレンス」ホームページ(<http://www.trafst.jp/conf2009/>)でも案内をします。

【登壇要領】 1論文について、発表は質疑を含め20分を予定しています。

【参加費】 会員8,000円、学生会員2,000円、会員外10,000円(事前申し込み分)

(横幹連合の会員学協会の会員の方は、「会員」参加費となります。参加費には、すべての講演論文を収録したCD-ROM講演論文集1部、横幹連合機関紙「横幹」2009年度発行の2号分を含み、横幹連合コンファレンスのすべての講演を聴講できます。)

講演申し込みは無料ですが、発表者、参加者はともに参加費をお支払いいただくことになります。

## 第3回 横幹連合コンファレンス 参加募集

～40学会がみちのく・東北に集う合同コンファレンス～  
コトづくりの可視化

開催日：2009年12月3日（木）、4日（金）、5日（土）  
会場：東北大学 片平さくらホール（仙台市青葉区片平二丁目一の一）  
主催：特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合  
共催：横幹連合加盟の40学会（下段に記載）  
後援：横断型基幹科学技術推進協議会

趣旨：横幹科学技術の学問としての深化と社会的問題の解決に向けた活動の活性化を目的として、第3回横幹連合コンファレンスを開催します。4年前に開催されました第1回横幹連合コンファレンスでのコトづくり長野宣言、2年前に開催されました第2回横幹連合コンファレンスでのコトづくりによるイノベーションの推進（京都宣言）を受け、コトづくりの議論のさらなる高まりを期して、今回の統一テーマを「コトづくりの可視化」とし、コトづくりの深化の見える形での議論展開を期待しております。各方面からの研究発表と参加を待望します。（申し込み方法などは、ホームページ <http://www.trafst.jp/conf2009/> をご覧ください。）

### 【プログラム】（予定セッション）

#### ● 企画セッション領域

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| (1) 特別セッション        | (3) 失敗の可視化            |
| (2) もののつくり方における可視化 | (5) コトづくりに情報を活かす      |
| (4) 人づくりからコトづくりへ   | (7) 環境問題におけるコトづくりの可視化 |
| (6) コトづくりにもとづく新市場  |                       |

#### ● 一般セッション

一般公募による論文講演

参加費：会員8,000円、学生会員2,000円、会員外10,000円（事前申し込み分）

（横幹連合の会員学協会の会員の方は、「会員」参加費となります。参加費には、すべての講演論文を収録したCD-ROM講演論文集1部、横幹連合機関紙「横幹」2009年度発行の2号分を含み、横幹連合コンファレンスのすべての講演を聴講できます。）

登壇要領：1論文について、発表は質疑を含め20分を予定しています。発表者は、オンライン申込みののち、論文原稿をA4用紙2、4、6頁のいずれかでPDFファイルにて投稿ください。申込方法、論文原稿執筆要項、送付先は、「横幹連合コンファレンス」ホームページ（<http://www.trafst.jp/conf2009/>）をご覧ください。

### 【重要な日付】

- オーガナイズド講演申込期間：2009年6月26日～7月24日（予定）
- 一般公募講演申込期間：2009年8月1日～8月31日（予定）
- オーガナイズド講演原稿提出期間：2009年9月4日～9月27日（予定）
- 一般公募講演原稿提出期間：2009年9月4日～10月27日（予定）

詳細問い合わせ先：横幹連合事務局 Tel: 03-3814-4130 E-mail: [conf2009@trafst.jp](mailto:conf2009@trafst.jp)

■横幹連合会員学協会（40学会）：応用統計学会、可視化情報学会、形の科学会、経営情報学会、計測自動制御学会、研究・技術計画学会、国際数理学協会、システム制御情報学会、スケジューリング学会、精密工学会、日本応用数理学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本感性工学会、日本経営工学会、日本経営システム学会、日本計算工学会、日本行動計量学会、日本コンピュータ化学会、日本シミュレーション学会、日本シミュレーション&ゲーミング学会、日本社会情報学会、日本情報経営学会、日本信頼性学会、日本生物工学会、日本生産管理学会、日本知能情報ファジィ学会、日本デザイン学会、日本統計学会、日本時計学会、日本人間工学会、日本バーチャルリアリティ学会、日本バイオフィードバック学会、日本バイオメカニクス学会、日本品質管理学会、日本リアルオプション学会、日本リモートセンシング学会、日本ロボット学会、ヒューマンインタフェース学会、品質工学会、プロジェクトマネジメント学会

## 2-2. 常置委員会の報告および計画

### 2-2-1. 企画・事業委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

#### ■企画・事業委員会

委員長	鈴木 久敏	(筑波大学、日本経営工学会、日本OR学会)
副委員長	佐野 昭	(慶應義塾大学、計測自動制御学会)
副委員長	大熊 和彦	(東京工業大学、研究・技術計画学会)
委員	帯川 利之	(東京大学、精密工学会)
	出口 光一郎	(東北大学、計測自動制御学会)
	椿 広計	(統計数理研究所・筑波大学、応用統計学会)
	木村 忠正	(電気通信大学、日本信頼性学会)
	土谷 隆	(統計数理研究所、日本OR学会)
	神徳 徹雄	((独)産業技術総合研究所、計測自動制御学会)
	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会(JASI))
	高津 春雄	(横川電機(株)、計測自動制御学会)
	原 辰次	(東京大学、計測自動制御学会)
	藤井 真理子	(東京大学、日本OR学会)
	渡辺 美智子	(東洋大学、日本統計学会)
	山本 修一郎	((株)NTTデータ、プロジェクトマネジメント学会)
	村松 健児	(東海大学、日本生産管理学会)

常置委員会として全体会の他、第2回総合シンポジウム実行委員会、第3回横幹コンファレンス委員会、アカデミック・ロードマップ委員会、人材育成・教育委員会の4委員会を設置して活動した。

#### 1. 全体会（鈴木委員長）

隔月で全体会を開催し、第2回総合シンポジウム実行委員会、第3回横幹コンファレンス委員会、アカデミック・ロードマップ委員会、人材育成・教育委員会の4委員会を設置、活動の統括・調整を行うと共に、全体会として以下の活動を行った。

##### [官との関係構築]

国及び官庁との対応方針、第4期科学技術基本計画へ横幹連合としての取組方針を議論した。その一環として、2009年度定時総会に合わせて総合科学技術会議常勤議員相澤益男氏（元東京工業大学長）をお招きしての基調講演を企画した。

##### [合同ワークショップ開催]

横幹連合の理念と類似の考え方を持つ産業技術総合研究所シンセオロジー編集委員会及び統計数理研究所との連携の強化を目指して、2009年1月19日(月)に産総研臨海副都心センター本館において、三者の活動理念及び研究事例を交流する合同ワークショップを開催した。横幹連合から約10名を含む約20数名の参加者を得て、活発に議論を展開し、三者の目指す方向が極めて近いことを確認し合った。今後も継続して合同ワークショップを開催する方向で意見が一致した。

##### [新事業企画策定]

定例の横幹コンファレンス、総合シンポジウム以外の新企画の立案を検討した。

#### 2. 第2回総合シンポジウム実行委員会（椿委員長、古田副委員長）

2008年12月4日(木)、5日(金)の両日、筑波大学東京キャンパス（東京・大塚）において、『横

幹技術の社会的使命」～高付加価値社会の実現に向けて～』をメインテーマに開催した。1日目は『「コトづくり」による「モノづくり」イノベーション』を掲げ、藤本隆宏氏（東京大学）の基調講演「広義のもの造り概念と産業競争力」とそれに引き続くパネル討論が行われ、2日目には4トラックのオーガナイズドセッション「リスク・安全研究と社会」「人にやさしいモノづくり・コトづくり」「高付加価値を生む技術」「横幹連合の取組み」で総計50件の発表があった。2日間で200名に上る多数の参加者があった。

3. 第3回横幹コンファレンス実行委員会（出口委員長、帯川副委員長、能勢プログラム委員長）  
出口光一郎理事を中心に実行委員会を組織し、2009年12月3日（木）、4日（金）、5日（土）の3日間にわたり、東北大学片平キャンパスにて開催の予定で準備を進めることとした。今回は、参加者が分散することなく各セッションで学会横断的な議論ができるように、パラレルトラック数を少なくし、代わりに開催日程を1日延ばし3日間とすることにした。
4. アカデミック・ロードマップ委員会（佐野委員長）  
経済産業省事業の事業に応募し、採択された（落札価格約700万円）。統括委員会の下、委員約35名が3つのワーキンググループ「知の統合WG」、「社会システムのシミュレーション・モデリング技術WG」、「人間生活支援WG」に別れ調査研究を進め、3月末に報告書を完成、刊行した。
5. 人材育成・教育小委員会（佐野委員長、本多幹事）  
横断型人材育成調査研究会と合同で活動し、企業・公的研究機関・研究者へのヒアリング及びアンケート調査を通して、横断型人材のコンピテンシー、横断型人材が必要とされる場、横断型人材の育成方法を調査研究した。研究成果の一部を第2回総合シンポジウムのパネル討論（オーガナイズドセッション）にて公表し、委員会外部の意見を聴取した。研究成果の最終報告書を3月に刊行すると共に、横幹連合の機関誌「横幹」のミニ特集として論文掲載した。

(B) 新年度の事業計画 .....

■企画・事業委員会

1. 全体会  
隔月で全体会を開催し、第3回横幹コンファレンス委員会、人材育成・教育委員会、合同ワークショップ実行委員会の3委員会を設置、活動の統括・調整を行うと共に、全体会として以下の活動を行う。  
[官との関係構築]  
国及び官庁との対応方針を協議・決定し、継続的な関係を構築・維持に努める。横幹科学技術の振興及び普及が図れる政策を第4期科学技術基本計画へ埋め込むべく積極的な活動を行う。  
[新事業企画策定]  
定例の横幹コンファレンス、総合シンポジウム以外の新企画の立案し実施する。
2. 第3回横幹コンファレンス実行委員会（出口委員長、帯川副委員長、能勢プログラム委員長）  
第3回横幹コンファレンスを2009年12月3日（木）、4日（金）、5日（土）の3日間にわたり、東北大学片平キャンパスにて開催する。
3. 人材育成・教育小委員会  
横断型人材の育成と横幹科学技術教育の普及に資する活動を行う。必要に応じて調査研究会の設置を行う。
4. 合同ワークショップ実行委員会  
産業技術総合研究所及び統計数理研究所との合同ワークショップを継続して開催する。



## 2-2-2. 総務・会員委員会

### (A) 旧年度の事業報告

#### ■総務・会員委員会

委員長	出口光一郎	(東北大学、横幹連合理事)
副委員長	神田 雄一	(東洋大学、横幹連合理事)
委員	山崎 憲	(日本大学、横幹連合理事)
	古田一雄	(東京大学、横幹連合理事)
	井上明也	(千葉工業大学)

(1) 20年度の総務・会員委員会の主要検討事項は、引き続き、横幹連合会員学会および各学会会員間の、交流やサービスの活動が横幹コンファレンス、総合シンポジウムなどの研究発表の場に限られている点について、横幹連合の内部での活動と基盤強化と、会員学会にとっての横幹連合の存在理由の明確を図ることとして、その検討を柱とする議論を行った。まず、20年度定時総会（5月）の際に各会員学会の「総務担当者会議」を行い、また、12月の横幹シンポジウムの際に「会長懇談会」を行い、横幹連合会員学会間のサービスの在り方についての議論を行った。それぞれでの議題と主な論点を下記に列挙する。

#### (a) 総務担当者会議

- ・計測自動制御学会にて導入を図っている総合的な学会運営のための IT システム「学会ネット」について、紹介があった。
- ・平成 19 年 10 月に 24 の会員学会会長または会長懇談会出席者個人としてのご意見・可能性・有効性を議論いただいた会員学会のサービスについて、主に総務に関連する「機関紙や研究会の相乗り」、「学会事務機能の一部、または、全部の機能の代行の提供」について意見を取り交わした。特に、結論は出ず、今後も検討を続けていくこととした。

#### (b) 会員学会会長懇談会

- ・2008 年度当初に行われた、横幹連合会長・副会長による会員学会役員等との懇談の内容のまとめと報告を行った。
- ・横幹連合会員学会の相互協力案のうち、「研究会等の行事への参加費の相互優遇」、「出版物等の購入費の総合優遇」について、意見を交わした。優遇案の受け入れについて、各学会個別に判断をしていくこととした。
- ・引き続き、学会間の相互協力について、話し合いを進めることとした。

#### (2) 事務局の組織、人員の体制について。

新事務局長のもとで、組織や人員配置について整理を行い、事務局の体制について検討を行った。事務局長と一部事務局員から交代の申し出があり、新体制への移行についての検討を行った。

### (B) 新年度の事業計画

#### ■総務・会員委員会

総務・会員委員会の主課題である (1) 横幹連合会員学会および各学会会員間の交流やサービス、(2) 健全な運営のための財政基盤の安定化、(3) 事務局体制の整備、について、いずれも、まだ解決には至っていないので、引き続き、今年度も継続して、検討、議論を行っていく。特に、各学会会員間の交流やサービスの活動について、早急に具体化して行く。

## 2-2-3. 学術・国際委員会(学としての知の統合委員会)

(A) 旧年度の事業報告 -----

## ■学術・国際委員会

委員長	木村 英紀	(独)理化学研究所
副委員長	廣田 薫	東京工業大学
委員	池田 雅夫	大阪大学
	遠藤 薫	学習院大学
	大隈 久	中央大学
	岸本 一男	筑波大学
	小林 信一	筑波大学
	櫻井 茂明	株式会社東芝
	杉江 俊治	京都大学
	高橋 進	東海大学/中央大学
	高間 康史	首都大学東京
	出口 光一郎	東北大学
	内藤 耕	産業技術総合研究所
	野本 弘平	三菱電機株式会社
	原 辰次	東京大学
	船橋 誠壽	株式会社日立製作所
	古屋 繁	拓殖大学
	松井 正之	電気通信大学
	村田 潔	明治大学

学としての知の統合委員会は、学術・国際委員会の下部組織として作られたが、実際は学術・国際委員会の役割も代行している。本年度は下記の活動を行った。特に安全・安心をテーマとした4学会連合の討論会の開催、人工社会についての討論会、「横幹科学技術」の定義に力を注いだ。

## ◆ 第1回

日時：2008年9月12日(金) 10:00~12:00

場所：学士会分館 2号室

議題：

- (1) 「サービス工学における知の応用とその観光業への応用」について  
産総研サービス工学研究センター次長 内藤 耕 様の講演と質疑等
- (2) 委員会の運営について

## ◆ 第2回

日時：2008年10月6日(月) 10:00~12:00

場所：計測自動制御学会事務局内会議室

議題：

- (1) ブレインストーミング：知の統合の理念と現状
- (2) 会員学会の連携システムの構築

## ◆ 第3回

日時：2008年10月27日(月) 14:00~17:00

場所：東京大学工学部6号館211号室

議題：「日立における横幹技術プラットフォームへの取り組み」  
（株）日立製作所 中村道治 取締役

◆ 第4回

日時：2008年12月15日（月）9：30～12：00

場所：計測自動制御学会事務局会議室

議題：

- (1) 内閣府委託「知の融合調査」結果報告 出口委員
- (2) 「安全・安心」について 野本委員他
- (3) 討議（各委員から提案いただいたテーマについて）

◆ 第5回

日時：2009年1月20日（火）9：30～12：00

場所：計測自動制御学会事務局会議室

議題：

- (1) 「社会を計算するエージェント・シミュレーション」  
寺野隆雄先生（東京工業大学 知能システム科学専攻 教授）
- (2) 拡大委員会(3/10)の進め方 野本弘平委員
- (3) 横幹科学技術の定義について 木村英紀委員
- (4) その他

◆ 第6回

日時：2009年2月18日（水）13：30～16：30

場所：東京大学工学部1号館5階504号室

議題：

- (1) 「社会シミュレーションの可能性——知の統合に向けて」  
遠藤先生のご講演
- (2) 人工社会と経営学 木村委員
- (3) 人工社会についての議論
- (4) 産総研・統数研との合同WSについて 鈴木委員
- (5) 横幹科学技術の定義について

◆ 第7回

日時：2009年3月10日（火）13：30～16：30

場所：筑波大学 東京キャンパス Lecture Room 1

議題：

- (1) 「ハードウェアに立脚した安全安心（流体計測制御関連）」  
香川利春先生（東京工業大学精密工学研究所高機能化システム部門）
- (2) 「システムにおける fail-safe 技術の変遷，ものづくりの中での安心・安全」  
中村英夫先生（日本大学理工学部電子情報工学科）
- (3) 「企業のリスクとサステナビリティ」  
中野冠先生（慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科）
- (4) 「安心を生み出す共存在コミュニケーション技術」  
三輪敬之先生（早稲田大学創造理工学部総合機械工学科）
- (5) 安心・安全に関するディスカッション
- (6) 横幹連合の貢献に関するディスカッション

◆ 第8回

日時：2009年4月17日（金）15：00～17：00

場所：筑波大学 東京キャンパス E館4階416号室

議題：

- (1) 「安心・安全」の今後の進め方について 野本委員  
第7回委員会(3/10)での四学会の講演と討議を踏まえて、「安心・安全」の今後の進め方を提案する。
- (2) 「経営と人工社会の接点」について 船橋委員  
船橋委員にご講演と今後の進め方についてご提案頂く。
- (3) 横幹科学技術の定義(100文字)について 木村委員  
これまでの検討結果を集大成し纏める。  
纏めたものは、横幹連合定期総会(4/20)で発表する。

年間活動を通して議論した「横幹科学技術」の定義については現状の草案は以下の通りである。

「横断型基幹科学技術とは、論理を規範原理とし、自然科学、人文・社会科学、工学などを横断的に統合することを通して異分野の融合を促し、それにより新しい社会的価値の創出をもたらす基盤学術体系である」

[補足説明]

たとえば、社会、人間、環境、生命、経営、組織マネジメントなどを扱うために生み出された、統計学、シミュレーション学、最適化手法、情報学、設計学などの学術体系である。

(B) 新年度の事業計画 -----

■学術・国際委員会

平成 21 (2009) 年度活動方針

引き続き連合の調査研究活動の活性化を支援するとともに、知の統合の学問的な基盤をさらに深め、人工社会を中心とした「文理融合」の深化を目指す活動を行う。同時に、対外的な活動の強化を通じて横幹科学技術の一層の振興につとめる。具体的にはつぎのようなイベントを実施する。

- ・ 学術会議と協力して「知の統合」に関するシンポジウムを行う。
- ・ 産総研・統数研との連携を強化する。
- ・ 「安心・安全」に関する学会連携シンポジウムの実施
- ・ 海外活動の開始
- ・ 人工社会調査研究会の発足

## 2-2-4. 産学連携委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

### ■産学連携委員会

委員長	舘 暲	東京大学
副委員長	椿 広計	統計数理研究所
副委員長	榎木 哲夫	京都大学
委員	井上 雄一郎	横幹連合
	太田 敏澄	電気通信大学
	酒井 一博	(財) 労働科学研究所
	澤田 一哉	パナソニック電工 (株)
	苗村 健	東京大学
	平井 成興	(独) 産業技術総合研究所
	広田 光一	東京大学
	藤井 眞理子	東京大学
	梅干野 晁	東京工業大学
	本間 弘一	(株) 日立製作所

第1回「産学連携委員会」2008/9/12 (金) 14-16

東京大学工学部1号館5階504会議室

1. 趣旨説明
2. 共通プロジェクトの提案
3. フォーラムの提案

第2回「産学連携委員会」2008/11/6 (木) 15-17

東京大学工学部1号館5階504会議室

1. フォーラムテーマ案説明と討議
2. 企業側から見た産学連携の話題・課題についての講演と質疑・討議  
須田博人氏 (株) NTTドコモ研究開発推進部技術管理担当部長・工学博士

第3回「産学連携委員会」2009/1/16 (金) 14-16

東京大学工学部1号館5階504会議室

1. 企業側から見た産学連携に関する話題・課題と、それらについての討議  
大久保宣夫氏 日産自動車株式会社 元副社長 (社友)
2. フォーラムテーマ案の検討

第4回「産学連携委員会」2009/3/31 (火) 15:30-16:30

1. 2009年度横幹技術フォーラムテーマの決定

### 【横幹フォーラム】

\*第18回横幹技術フォーラム シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合

～ シリーズ第1回 企業パフォーマンスを評価する ～

日時：2009年1月7日 (水) 13:20～17:10

場所：学士会館 本館 2階 202号室

司会：椿広計、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：木村英紀

基調講演「財務データ及び非財務データによる「危ない社会」の評価方法」

白田佳子 (筑波大学教授、日本学術会議会員)

講演1 「日経プリズムにおける「優れた会社」の評価方法」

鈴木督久 (日経リサーチ取締役)

講演2 「ソフトウェア産業におけるコア・コンピタンスと経営パフォーマンスの因果構造」  
角埜恭央（東京工科大学教授）

パネル討論「経営評価と経営設計の方法論：経営の高度化と経営科学の実質化を目指して」

\* 第19回横幹技術フォーラム シリーズ：経営の高度化に向けての知の統合

～ シリーズ第2回 エンタープライズリスクマネジメント～

日時：2009年3月30日（月）13:30～16:40

会場：筑波大学 東京キャンパス（東京都文京区大塚3-39-1）G501室

司会：椿広計、開会挨拶：桑原洋、閉会挨拶：木村英紀

基調講演：「エンタープライズリスクマネジメントの新たな潮流」

刈屋 武昭（明治大学大学院グローバルビジネス研究科長）

講演：「リアルオプションによる資源開発事業評価とERM」

中岡 英隆（首都大学東京経営学系教授）

パネル討論と総合質疑：刈屋武昭、中岡英隆、椿広計（司会）

(B) 新年度の事業計画 .....

■産学連携委員会

隔月で、年度6回程度開催予定。フォーラムの企画立案を行うとともに、企業側から見た産学連携の話題・課題についての講演とそれに対する質疑・討議を行い横幹連合における産学連携の礎を築く。横幹協議会からのオブザーバ参加を昨年度に引き続き積極的に呼びかける。

【横幹フォーラム】

原則隔月で、奇数月開催。講演者の予定などで、前後の月に開催する場合もある。下記のように、平成21年度の開催が予定されている。企画の詳細は、コーディネータが立案し、産学連携委員会で議論され、横幹協議会の意見も反映しつつ確定され、横幹協議会と横幹連合の共催で実施される。

コーディネータ	回数	テーマ	予定月	実施月日場所
太田	20	SNSが切り拓く バリアフリー・コミュニケーション ～企業内SNS最先端の活用事例～	5月	6月3日決定 筑波大学東京 キャンパス
椿・松井	21	シリーズ経営高度化 第3回「経営構造化のツールとしてのBSC」 (仮題)	7月	
椿・松井	22	シリーズ経営高度化 第4回「BSCをどのように発展させるべきか」 (仮題)	9月	
藤井	23	サブプライムローン問題と金融イノベーション (仮題)	11月	
澤田	24	21世紀のものづくり革新をめざして (仮題)	1月	
館	25	バーチャルリアリティの将来形を探る ー未来の情報家電とモビリティを求めてー (仮題)	3月	

## 2-2-5. 広報・出版委員会

### (A) 旧年度の事業報告 .....

#### ■広報・出版委員会

委員長	西村 千秋	(東邦大学、日本バイオフィードバック学会)
副委員長	遠藤 薫	(学習院大学、日本社会情報学会)
副委員長	青木 克巳	(東海大学、可視化情報学会)
委員	山中 敏正	(筑波大学、日本デザイン学会)
	小山 慎哉	(函館工業高等専門学校、日本バーチャルリアリティ学会)
	坂本 隆	( (独) 産業技術総合研究所、日本感性工学会)
	高橋 正人	( (独) 情報通信研究機構、計測自動制御学会学会)
	武田 博直	(株セガ、日本バーチャルリアリティ学会)
	原 尚幸	(東京大学、応用統計学会学会)
	村井 康真	(工学院大学、日本感性工学会)

広報・出版委員会は、日常的な業務として横幹連合ホームページの管理、ニュースレターの出版等を行っており、それらを通じて、会員学会および一般へ向けて、横幹連合の広報活動を展開している。また、それ以外にも横幹パンフレットを作成したり、機会あるたびに横幹連合の展示活動を行っている。旧年度の活動実績は以下の通りである。なお、当委員会は、各方面からの要請により、会誌「横幹」以外の不定期刊行物の出版も手がけているが、旧年度においてはとくに出版要請がなかった

#### 6. ホームページを利用した広報活動の推進

横幹連合ホームページを頻回に更新し、横幹総合シンポジウム、同フォーラム、会員学会等の開催予定、各種アナウンスなど、最新の情報を、会員学会をはじめ、一般からもアクセスできる形で提供した。

#### 7. ニュースレターの発行

旧年度は予定通り4回のニュースレター発行を行った(No.13~16)。ニュースレターは、時々イベントの様子や会員学会の紹介などを中心に扱い、発行のたびに会員学会に通知するとともに、ホームページ上にも掲載し、一般の閲覧にも供した。

#### 8. 新パンフレットの作成

旧パンフレットを更新し、内容・デザインともに一新したパンフレットを大小2種類作成した。

#### 9. 展示

2008年11月に開催された第51回自動制御連合講演会および同12月に開催された第2回横幹連合総合シンポジウムにおいて、横幹連合活動紹介のパネル展示を行った。

### (B) 新年度の事業計画 .....

#### ■広報・出版委員会

広報・出版委員会では、日常業務(ホームページの管理・運営、ニュースレター発行など)については新年度も引き続き行う予定である。また、展示についても、あらゆる機会を利用して継続していく。また、新しい事業として、ホームページおよび横幹パンフレットなど、横幹広報媒体における英文化を計画して実現したいと考えている。

1. ホームページを利用した広報活動の推進
2. ニュースレターの発行および展示活動の継続
3. ホームページや横幹パンフレットの英文化

## 2-2-6. 会誌編集委員会

(A) 旧年度の事業報告 -----

## ■会誌編集委員会

委員長	原 辰次	東京大学
副委員長	大倉 典子	芝浦工業大学
委員	杉江 俊治	京都大学
	山本 正宣	(株)シグナルコンサルタント
	金子 勝一	山梨学院大学
	杉野 隆	国土館大学
	加藤 象二郎	愛知みずほ大学
	椿 広計	統計数理研究所
	三宅 美博	東工大
	山田 雄二	筑波大学
	竹山 春子	早稲田大学
	奈良 高明	電気通信大学
	長嶋 雲兵	産業技術総合研究所

横幹の活動を根付かせるためにはアーカイブとして後世に受け継がれるものの作成が必要との認識のもと、横幹連合の学会誌「横幹」が平成 19 年 4 月に創刊号が発刊された。当年度 2 号（4 月、10 月）の頻度で会誌を発行する方針を受け、2008 年度は第 2 巻 1 号と 2 号の発行を行った。

2008 年度の編集方針の一つとして、ミニ特集号を組むことにより、横幹連合の活動ならびにカバーしている主たる研究分野を紹介することとした。ミニ特集内容は

- ・第 2 巻 1 号：マネジメント
- ・第 2 巻 2 号：アカデミック・ロードマップ

である。また、会誌を通じた会員学会の相互交流を高めるために「会員学会紹介」の欄を設け、会員学会の活動内容と横幹連合との関わりに関して紹介していただくこととした。

2008 年度に発行した第 2 巻 1 号と 2 号の主たる内容を以下の表に示す。

## Vol.2 No.1

巻頭言	横幹連合の今までとこれから	江尻 正員
論説	産業技術力の強化に向けた横幹技術への期待	中村 道治 他
解説	インターネット新時代のイノベーションとマーケティング	岡本 吉晴
解説	研究開発におけるイノベーションとマネジメント	野村 淳二
解説	プロジェクト・リスクの識別と記述	木野 泰伸
解説	横幹的視点からの環境問題へのアプローチ	安岡 善文
解説	学会員の知を結ぶ学会活動支援システム	寺野 隆雄 他
原著論文	概念創造のための類推思考プロセスにおける迷いの効果	中村 潤 他
会員学会紹介	バイオフィードバック学会のめざすところ — 医学・心理学・工学のシナジー —	西村 千明 他



## Vol.2 No.2

巻頭言	横幹連合の可能性	木村 英紀
解説	学会横断型アカデミック・ロードマップ	江尻 正員 他
解説	制御・管理技術分野のアカデミック・ロードマップ	三平 満司
解説	シミュレーション技術とその未来展望	山崎 憲 他
解説	ヒューマンインタフェースの革新による新社会の創生に向けたアカデミック・ロードマップ	榎木 哲夫
解説	ものづくり分野のアカデミック・ロードマップ	新井 民夫 他
解説	自己評価による経営品質の向上	長田 洋
会員学会紹介	人間中心のシステムを考え設計する ー日本人間工学会の活動ー	青木 和夫
会員学会紹介	価値基準のパラダイムシフトに向けて ー 日本感性工学会の現在・過去・未来 ー	庄司 裕子 他

## (B) 新年度の事業計画 .....

## ■会誌編集委員会

会誌「横幹」が当初の目的を果たすために、昨年度実施した「ミニ特集」の企画と「会員学会紹介」のコーナーは継続する。また、柔らかい記事の掲載に向けた新しい企画等、より幅広い視野からの会誌編集を行っていくために、会員学会からの推薦による編集委員の充実とその活用を図っていく予定である。さらに、web での掲載等、サーキュレーションに関する検討を行う。

会誌に掲載の総説・解説・サーベイ論文・原著論文を通して、多様な歴史・背景を持つ異なる分野の研究者の相互交流が効果的に行われることを願っており、多くの投稿を期待している。

## Vol.3 No.1

巻頭言	知の統合学としての横幹学をめざして	館 暉
解説	ミニ特集「横断型人材育成」に向けて	佐野 昭
解説	横断型・融合型人材はなぜ必要か?	鈴木 久敏 他
解説	文理横断と人材育成	遠藤 薫
解説	横断型人材育成における評価 ー教育プロセスの評価と育成した人材の評価ー	川田 誠一 他
解説	大学・大学院における横断型人材育成の現状と課題	本多 敏 他
解説	企業における横断型人材育成の現状と課題	藤原 靖彦 他
解説	横断型人材育成推進に向けて	佐野 昭 他
論説	複雑化する人工物の設計・利用に関する補完的アプローチ.	藤本 隆宏
解説	SICE City ー生きがい創出都市ー	篠田 裕之 他
会員学会紹介	ものづくり技術の核ー精密工学	水野 毅
会員学会紹介	文理を横断する日本社会情報学会 モノ・コト・社会を<情報>からみる.	遠藤 薫
会員学会紹介	横断型科学技術の基盤を成すシミュレーション技術	山崎 憲

## Vol.3 No.2 (予定)

### 「横幹」次号のミニ特集

「横幹」第3巻第2号(本年10月発行予定)は、以下のミニ特集を組む予定です。

#### 1. 「女性研究者の育成」

平成11年6月に男女共同参画社会基本法が施行され、また平成13年3月に閣議決定された第2期科学技術基本計画およびその後の第3期科学技術基本計画においても、女性研究者への採用機会等の確保および勤務環境の充実等が明記されました。これらを受け、科学技術分野において男女共同参画を推進する動きが各方面に広まりつつありますが、欧米やアジア諸国と比較して、日本の女性研究者はまだ非常に少ない状態です。そこで本ミニ特集では、横幹連合会員学会の動向を含めて現状を整理し、今後の方向を考える機会を提供したいと思います。

#### 2. 「2008 年度アカデミック・ロードマップ」

## 2-3. 委員会・調査研究会の報告および計画

### 2-3-1. アカデミック・ロードマップ委員会

(A) 平成20年度の事業報告 -----

#### ■横幹連合アカデミック・ロードマップ委員会

##### 1. 委員会構成

総括委員会（横幹連合アカデミック・ロードマップ委員会）

委員長	佐野 昭	慶應義塾大学（横幹連合理事）、WG1 主査
副委員長	出口光一郎	東北大学（横幹連合理事）
幹事	神徳徹雄	産業技術総合研究所（横幹連合企画委員会委員）
	井上雄一郎	横幹連合顧問
委員	川村貞夫	立命館大学（日本ロボット学会）、WG3 主査
	鈴木久敏	筑波大学（横幹連合副会長）
	山崎 憲	日本大学（日本シミュレーション学会、横幹連合理事）
		WG2 主査

アドバイ

ザリ委員	江尻正員	産業技術コンサルタント（横幹連合前副会長、ARM 前委員長）
補助研究員	富田武彦	横幹連合事務局員
	潮 裕子	横幹連合事務局員

##### WG1（ワーキンググループ1）

主査	佐野 昭	慶應義塾大学（計測自動制御学会）
副主査	出口光一郎	東北大学（計測自動制御学会）
委員	遠藤 薫	学習院大学（日本社会情報学会）
	太田敏澄	電気通信大学（日本社会情報学会）
	小林信一	筑波大学（研究・技術計画学会）
	新 誠一	電気通信大学（計測自動制御学会）
	鈴木久敏	筑波大学（日本経営工学会）
	田中健次	電気通信大学（日本信頼性学会）
	椿 広計	統計数理研究所（応用統計学会）
	長嶋雲兵	産業技術総合研究所（日本コンピュータ化学会）
	原 尚幸	東京大学（応用統計学会）
	藤井真理子	東京大学（日本オペレーションズ・リサーチ学会）
	宮本定明	筑波大学（日本知能情報ファジィ学会）
	安岡善文	国立環境研究所（日本リモートセンシング学会）
協力	高橋 進	東海大学（日本経営システム学会）

##### WG2（ワーキンググループ2）

主査	山崎 憲	日本大学（日本シミュレーション学会）
副主査	古田一雄	東京大学（ヒューマンインタフェース学会）
幹事	大石進一	早稲田大学（日本シミュレーション学会）
委員	和泉 潔	産業技術総合研究所（人工知能学会）
	七条達弘	大阪府立大学（日本経済学会）
	辻 竜平	信州大学（数理社会学会）
	寺野隆雄	東京工業大学（計測自動制御学会）

中西美和	千葉大学 (日本人間工学会)
中谷祐介	早稲田大学 (日本シミュレーション学会)
久本誠一	製品評価技術基盤機構 (日本人間工学会)
増田浩通	千葉工業大学 (プロジェクトマネジメント学会)
宮脇 昇	立命館大学 (日本シミュレーション&ゲーミング学会)
渡邊一衛	成蹊大学 (日本経営工学会)

WG3 (ワーキンググループ3)

主 査:	川村貞夫	立命館大学 (日本ロボット学会)
副主査:	大倉典子	芝浦工業大学 (計測自動制御学会)
幹 事:	稲見昌彦	慶應義塾大学 (日本バーチャルリアリティ学会)
委 員:	伊東昌子	常盤大学 (プロジェクトマネジメント学会)
	市川 薫	早稲田大学 (ヒューマンインタフェース学会)
	加藤俊一	中央大学 (日本感性工学会)
	小松原明哲	早稲田大学 (日本人間工学会)
	篠田裕之	東京大学 (計測自動制御学会)
	武田博直	榊セガ (日本バーチャルリアリティ学会)
	辻 敏夫	広島大学 (日本バイオメカニクス学会)
	持丸正明	産業技術総合研究所 (日本人間工学会)
	山本 栄	東京理科大学 (日本人間工学会)
	渡辺富夫	岡山県立大学 (ヒューマンインタフェース学会)

2. 活動内容

前年度に引き続き、平成20年度経済産業省技術戦略マップローリング委託事業(アカデミック・ロードマップ作成支援事業)の委託を受け、「分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ」を作成した。今回の課題として、

WG1: 知の統合に関する検討

WG2: 社会システムのモデリング・シミュレーション技術に関する検討

WG3: 人間・生活支援技術に関する検討

に焦点を当て、それぞれ2050年までの目標に向けたアカデミック・ロードマップを作成した。横幹連合の会員学会の学術分野や研究課題の多くは、人間、社会、人工物、自然などが複雑に関連しており、理工学系や人文社会学系の細分化した個々の領域だけでは取り組むことが困難な状況であり、理工学分野と人文社会学分野との交流や連携も含めて、知の統合をいかに推進するかという課題は横幹連合にとっては大きな目標であるという認識のもとで、上記の課題を選択した。

各WGは、4回または5回の検討会(1回は合宿形式)を通して議論を深め、最終的にこれらの検討結果を報告書にまとめた。WG1では、知の統合を推進し新しい学術分野を展開するための知の統合プラットフォームの仕組みと役割について検討し、普遍化と課題解決のための特殊化が機能する統合プラットフォーム上における新しい学問領域の構築とその展開、それによる波及効果や知の統合を必要とする課題解決のための学問的方法論の新たな創成の展開を予測するアカデミック・ロードマップを検討した。WG2では、人間の行動を組み込んだ広範な社会システムのモデリング技術とそれに基づく社会制度や社会デザインは極めて重要な課題であり、この課題解決に向けた社会システムのシミュレーション技術とそれを支援する学術的方法論や研究分野の将来展開のアカデミック・ロードマップを検討した。WG3では、社会が複雑化し多様化するにつれて、その中で生活する人間にとって、安心・安全が保証された生活支援システムの構築は重要な課題となる。この広範な課題を、個の人間の生活支援、個の人間と人工物のインタフェース、個の人間と個の人間から構成される社会、という視点からこれらを支援する統合化のための研究分野および新たな学術領域や方法論の展開を予測するアカデミック・ロードマップを検討した。最後に、WG1からWG

3の検討内容を知の統合という視点からまとめた。

平成19年度と平成20年度の横幹連合アカデミック・ロードマップの検討内容に関する広報活動についても積極的に行った。第51回自動制御連合講演会での昨年度の内容に関するパネル展示、第2回横幹連合総合シンポジウムでの特別企画セッション「アカデミック・ロードマップ」における昨年度と今年度の間接報告、および同シンポジウムにおける社会システムのモデリング・シミュレーション技術に関するオーガナイズドセッション、横幹連合・横幹技術協議会産学連携委員会における「産業界での ARM 活用に関する対話会」、その他の広報活動を行い、広く意見交換を行った。

以上の検討結果をまとめて、報告書「分野横断型科学技術アカデミック・ロードマップ」として平成21年3月末に経済産業省へ提出した。近い将来、その内容が経済産業省から公開される予定である。

## 2-3-2. 医薬品インタフェース調査研究会

(A) 旧年度の事業報告 .....

### ■医薬品インタフェース調査研究会

設置期間	2007年4月～2009年3月	
幹事学会	日本人間工学会	
主査	土屋文人	(東京医科歯科大学、日本人間工学会)
副主査	大倉典子	(芝浦工業大学、日本バーチャルリアリティ学会)
幹事	木村昌臣	(芝浦工業大学、日本人間工学会)
委員	青木和夫	(日本大学、日本人間工学会)
	小松原明哲	(早稲田大学、ヒューマンインタフェース学会)
	三林洋介	(東京都立産業技術高等専門学校、日本人間工学会)
オブザーバ	古川裕之	(金沢大学、日本医療情報学会)

平成11年1月11日に起きた手術患者取り違い事故を契機とし、日本における医療事故防止への取り組みが本格的に始まった。以来、厚生労働省主導による各種報告制度や警告制度の整備が進んでいるが、医薬品や医療関係者による検討だけでは、医療事故の防止に効果的な医薬品の表示の指針を明確にすることは難しい。

そこで本調査研究会では、人間工学やインタフェース、さらに横幹連合の各学会から広範囲の知恵を集め、この問題に取り組み、医薬品の表示の指針の策定に寄与することにした。

#### 2. 電子情報通信学会安全性研究会の実施

医療の安全をテーマとした電子情報通信学会安全性研究会を、本調査研究会幹事で同研究会専門委員の木村が企画し、2008年5月23日に機械振興会館で同研究会を実施した。講演者は、古川、大倉、三林、木村、土屋。電子情報通信学会安全性研究会委員の先生方を中心として、活発な意見交換が行われた。

#### 3. 第2回横幹連合総合シンポジウムでの企画セッションの実施

第2回横幹連合総合シンポジウムで本調査研究会の企画セッション「医薬品インタフェース」を実施することになり、本調査研究会副主査の大倉が企画した。基調講演者に厚生労働省医療安全調査官の谷地豊氏を迎えて、2008年12月5日に、筑波大学で同セッションを実施した。谷地氏以外の講演者は、三林、大倉、木村、土屋。講演後にディスカッションの時間を設けたが、聴講者も多く、質問も活発で、大変有意義なセッションであった。

#### 4. イベント「製薬企業のための人間工学入門」の開催

日本人間工学会医療安全研究部会との共催で、本調査研究会主査で同部会の部会長である土屋が企画し、2009年3月23日に、上記イベントを東京医科歯科大学で開催した。発表者は、第1部が芝浦工業大学大倉研、木村研の学生、第2部が青木(予定。実際には当日急用のため欠席で、大倉が代行)、土屋。約60名の参加があり、活発なディスカッションが行われた。

#### 5. 「医薬品の使用の安全に関する資料集」の発行

1999年1月11日に、横浜の病院で手術患者取り違い事故が起き、医療安全に対する国の積極的な取り組みが開始されてから、丁度10年が経過した。そこで、本調査研究会と日本人間工学会医療安全研究部会との共同で、「医薬品の使用の安全に関する資料集」をまとめることにした。内容は、医薬品の使用の安全に関する、本調査研究会のメンバーの公表した著作物をまとめたも

ので、約 550 ページ。上記イベントに合わせて発行した。

6. その他

数名の委員によるインフォーマルミーティングを、2007 年度よりさらに活発化し、2008 年から部分実施されている医薬品へのバーコード表示の義務化、それに伴う医薬品の表示の変更、医療従事者の再教育等について、製薬企業や厚生労働省の関係者・医療従事者からのヒヤリング等を実施すると共に、医薬品の表示に関する事例研究も行なった。

(B) 新年度の事業計画 -----

■医薬品インタフェース調査研究会

2009 年度からは、新規の申請となるので、ここには記載しない。

### 2-3-3. 横断型人材育成推進調査研究会

(A) 平成20年度の事業報告 .....

#### ■横断型人材育成推進調査研究会

##### 1. 本調査研究会の委員構成

平成19年度と20年度の委員構成は以下の通りである。

設置期間	2007年5月～2009年3月	
幹事学会	計測自動制御学会	
主査	佐野 昭	慶應義塾大学, 横幹連合理事, 計測自動制御学会
副主査	長田 洋	東京工業大学, 横幹連合理事, 品質管理学会
幹事	本多 敏	慶應義塾大学, 計測自動制御学会
委員	藤原 靖彦	日立製作所, 横幹技術協議会
委員	旭岡 勝義	社会インフラ研究センター, 研究・技術計画学会
委員	飯島 淳一	東京工業大学, 経営情報学会
委員	遠藤 薫	学習院大学, 日本社会情報学会
委員	川田 誠一	産業技術大学院大学, 計測自動制御学会
委員	坂井 佐千穂	住商情報システム, 電子情報通信学会
委員	樫木 哲夫	京都大学, 横幹連合理事, ヒューマンインタフェース学会
委員	鈴木 久敏	筑波大学, 横幹連合副会長
委員	高津 春雄	横河電機, 計測自動制御学会
委員	鳥海 光弘	東京大学, 日本地質学会
委員	中島 秀之	はこだて未来大学, 情報処理学会
委員	原 辰次	東京大学, 横幹連合理事, 計測自動制御学会
委員	林 利弘	日立製作所, 精密工学会
委員	古田 一雄	東京大学, 横幹連合理事

##### 2. 本調査研究会の目的

横幹連合が目指すコトづくりを推進する人材育成は重要な課題であり、産業界においても融合型人材への期待が大きい。科学技術が人間、社会、環境などとの関わりをもつようになり、単一の専門分野では解決が困難になりつつある多くの課題の解決には、縦型学問分野の壁を越えた分野横断型基盤技術の推進が重要な役割をもち、横断型・融合型視点から課題に取り組む人材教育が大きな課題となっている。本調査研究会では、横断型科学技術者育成のための育成体制の確立、人材育成における産学連携協調の具体的方法、文理融合を促進するための方法や教育制度の変革、横断型科学技術者の社会における評価の仕組み、具体的な人材育成プログラムの調査研究、横断型・融合型人材育成のロードマップ作成などを目標とした調査研究を実施し、横断型人材育成を推進するための提言を産業界、官庁、大学に向けて行う。

##### 3. 平成20年度の本調査研究会実施活動報告

###### (a) 横断型人材育成推進調査研究会における検討事項

平成19年度に引き続き、平成20年度は下記の8回を開催し、討議を行った。

第8回調査研究会(2008年4月23日(水) 18:00-20:50)

筑波大学小林信一先生による講演「知の統合の海外動向」、およびはこだて未来大学 中島秀之先生による講演「情報工学教育における横断型人材育成」に対して質疑応答および討論を行った。さらに、情報通信分野、ソリューション分野の企業インタビュー結果についても検討を行い、今後の調査研究の



進め方について議論した。

第9回調査研究会(2008年5月27日(水) 18:00-20:50)

電気メーカーの中央研究所および総合電気メーカーの企業インタビューの結果に関する報告とその内容に関連して人材育成についての自由討論を行った。また、人材育成に関する自動車メーカーの発表内容についての報告があり、質疑討論を行った。横断型人材の評価やコンピテンシーの評価をどのように行うべきかについての議論、さらに12月に開催予定の総合シンポジウムにおけるセッション企画とパネル討論の基本方針について検討した。

第10回調査研究会(2008年7月2日(水) 16:30-19:30)

第2回横幹連合総合シンポジウムにおける横断型人材育成に関するセッション企画の6件の講演内容と、その後のパネル討論の進め方について、詳細な議論を行った。特にパネル討論の内容に関連して、調査研究会として提言をどのような形でまとめるかについても詳細な議論を行った。次回に向けての検討課題を明らかにした。

第11回調査研究会(2008年8月1日(金) 18:00-21:00)

外資系電気メーカーのインタビュー結果の内容説明と関連する討論を行った。第2回横幹連合総合シンポジウムにおける企画セッションの前半部(講演)の講演者と内容についての最終案を検討し、各講演者に依頼することを決めた。さらに、後半部のパネル討論で中心となる提言内容に関して、これまでの企業インタビューのまとめを参考にして討論を行った。さらに諸外国の状況の調査結果やConverging Technologyに関する資料を通して今後の進め方についても議論した。

第12回調査研究会(2008年9月11日(木) 17:00-21:00)

重工メーカーのインタビュー結果についての報告と討論を行った。報告書のまとめ方および12月末脱稿予定の横幹ミニ特集「横断型人材育成」の内容について議論を行った。特に、横断型人材とは何か?なぜ必要なのか?について、これまでのインタビュー結果や調査結果を通して議論をし、さらに明確にしていくことになった。大学教育に関する調査研究を行うことになった。

第13回調査研究会(2008年10月20日(月) 18:30-21:00)

横幹ミニ特集「横断型人材育成」の構成の基本となる項目に関して、詳細な議論を行った。また調査研究会としての提言項目について議論を行った。諸外国での横断型人材育成の状況調査も行うことになった。その結果、具体的な目次構成案、タイトル案、各概要、担当責任者案の基本方針を決定した。

第14回調査研究会(2008年11月21日(金) 19:00-20:45)

12月5日の第2回横幹連合総合シンポジウムでの企画セッション後半部のパネル討論の進め方について最終的なまとめを行った。さらに、ミニ特集の目次構成案に基づいて、7編の概要説明が担当責任者により行われ、その内容に関して詳細な議論を行った。

第15回調査研究会(2008年12月22日(月) 19:30-21:30)

各編の担当責任者より、提出された原稿の内容に関して、説明とそれに関する討論や修正の方向について議論を行った。1週間の修正期間の後、主査、副査、幹事で、全体の流れなどを調整することになり、年明けに全原稿を脱稿できる見通しとなった。

(b) 第2回横幹連合総合シンポジウムのオーガナイズドセッション企画実施

(平成20年12月5日、筑波大学大塚キャンパス)

- (1) 横断型人材育成推進調査研究会活動報告 佐野 昭氏 (慶應義塾大学)
- (2) 実践と教育：函館の場合 中島 秀之氏 (はこだて未来大学)
- (3) 産学連携による実践的人材育成と将来的課題 中野 孝昭氏 (横浜国大)
- (4) 人材育成への産業界の取り組み 大力 修氏 (新日鉄ソリューション)
- (5) 地域・異業種との協力プロジェクトにおける横断型人材の活躍 藤倉 利之氏 (日産自動車)
- (6) オープンイノベーションを担う日本人の人材育成 永島 晃氏 (横河電機)

休憩 (15分)

- (7) パネル討論 司会 佐野 昭氏 (慶應義塾大学)

パネリストとして、上の講演者と富田公夫氏(日産自動車)を加えて討論を行った。論点として、大学側と企業側の人材育成に関する考え方のギャップはどこにあるのか、現在のOJTの限界は

何か、新しい方向性があるとしたらそれは何か、横断型人材育成に関して産学連携にはどのような方向性や方法が考えられるか、インターンシップの今後のあり方、博士課程における人材育成のあり方、横断型人材のコンピテンシーとその評価は、その他、長時間に渡って討論を行った。

(c) 企業および大学へのインタビューによる調査（平成20年度分）

平成20年4月以降に横断型・融合型人材育成に関するインタビューを行った企業は、情報通信分野、総合電機メーカー、電気メーカー中央研究所、外資系電気メーカー、外資系材料メーカー、総合電機メーカー本社、などがあり、平成19年度のインタビュー結果も含めて、13社のインタビュー結果を総合的に調査整理し、横幹ミニ特集や調査報告書に反映することにした。

(d) 横幹ミニ特集「横断型人材育成」Vol.3, No.1の企画および編集（平成21年4月発行予定）

本調査研究会の活動の成果を、横幹ミニ特集として下記のような構成にまとめた。

(1) 佐野 昭：ミニ特集「横断型人材育成」に寄せて

(2) 鈴木 久敏，坂井 佐千穂，旭岡 勝義：横断型・融合型人材はなぜ必要か？

(3) 遠藤 薫：文理横断と人材育成

(4) 川田 誠一，旭岡勝義：横断型人材育成における評価 — 教育プロセスの評価と育成した人材の評価 —

(5) 大学・大学院における横断型人材育成の現状と課題：本多 敏，古田 一雄，飯島 淳一，長田 洋，佐野 昭

(6) 企業における横断型人材育成の現状と課題：藤原 靖彦，旭岡 勝義，高津 春雄，坂井 佐千穂

囲み記事「第2回横幹連合シンポジウムにおける永島晃氏((株)横河電機)の講演から」

(7) 横断型人材育成の推進に向けて：佐野 昭，長田 洋，藤原 靖彦，本多 敏

(e) 横断型人材育成推進調査研究会報告書作成

本調査研究会の調査研究結果は、横幹ミニ特集の7編の内容に集約されているが、それ以外の資料も含め、別途調査報告書を作成する予定であり、現在そのとりまとめをおこなっている。

## 2-3-4. 社会デザイン調査研究会

(A) 旧年度の事業報告 -----

## ■社会デザイン調査研究会

設置期間	2008 年 4 月～2010 年 3 月	
幹事学会	計測自動制御学会・ヒューマンインタフェース学会	
主査	古田一雄	(東京大学、計測自動制御学会)
副主査	寺野隆雄	(東京工業大学、経営情報学会)
幹事	下村芳樹	(首都大学東京、精密工学会)
幹事	菅野太郎	(東京大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員	内田祥士	(東洋大学)
	大澤幸生	(東京大学)
	岡本浩一	(東洋英和女学院大学)
	上 昌広	(東京大学)
	熊坂賢次	(慶応大学)
	西條辰義	(大阪大学)
	塩瀬隆之	(京都大学)
	高玉圭樹	(電気通信大学)
	高橋武秀	(自動車部品工業会)
	館山武史	(首都大学東京)
	西尾チヅル	(筑波大学)
	西田豊明	(京都大学)
	日高一義	(日本 I BM)
	矢田勝俊	(関西大学)

合計 3 回の研究会を開催し、社会デザインの課題、技術的方法論、成功事例などに関して講演に基づいて議論することにより、社会デザインの現状の把握を行った。

第 1 回調査研究会 (4 月 25 日) : 主査の趣旨説明に続いて、研究会の方向性、社会デザインの定義など、社会デザインに関連する主要概念、デザイン対象や特徴、方法論について議論した。また、自動車産業における構造変遷について、機能要求の多様化、細分化や知識の沈澱・集積プロセス等の観点から現場の知見に基づく講演を聴き、製造業における製品開発と組織の関わり、産学連家のありかたなどについて議論を深めた。

第 2 回調査研究会 (7 月 30 日) : 「医療ガバナンスとメディアチェーン」をテーマとして、携帯・メール・インターネットが医療ガバナンスに与えている影響についての報告を聴き、医療制度設計における問題点と解決策について議論を行った。つぎに、組織的意思決定を行う際の手順や組織風土と組織的不祥事との関連性、および不祥事の防止方策に関する研究発表を聴き、質の高い組織的意思決定を実現するための仕組みについて議論した。

第 3 回調査研究会 (12 月 1 日) : 建築家と町工場との協力による価値創造の成功事例が紹介され、出会いによる価値共創の観点から議論を行った。また、社会シミュレーション研究のレビューを行うとともに、シミュレーションモデルをミクロ、マクロの双方向から検証することの必要性について議論した。

(B) 新年度の事業計画 -----

■社会デザイン調査研究会

2008 年度に引き続き、3～4 回程度の調査研究会を実施する。昨年度にとりあげられなかった、経済、経営、サービス等の分野における社会デザインの事例と方法論をとりあげる。その結果を踏まえて、社会デザインの主要概念を整理することを試みる。

また、第3回横幹コンファレンスにおいて「社会デザイン」をテーマとしたセッションを企画する。オガナイザーは古田、大澤の予定。

## 3. 第3号議案:2008(平成20)年度収支決算報告および2009(平成21)年度予算案

## 2008(平成20)年度 横幹連合 収支計算書

2008.4.1~2009.3.31

## 収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 会費収入	2,490,000	2,440,000	50,000	98.0%	
2. 民間補助金	300,000	100,000	200,000	33.3%	
3. 繰越金	8,954,198	8,954,198	0	100.0%	
4. 事業収入	14,300,000	8,456,850	5,843,150	59.1%	
受託事業	10,000,000	7,340,550	2,659,450	73.4%	
プロジェクト	2,000,000	0	2,000,000	0.0%	
参加費	1,200,000	810,000	390,000	67.5%	
会誌	1,100,000	306,300	793,700	27.8%	
その他	0	0	0		
5. 繰入金収入	0	0	0		
6. 雑収入	300,000	195,490	104,510	65.2%	
7. 引当金の繰り入れ	0	0	0		
収入合計 (A)	26,344,198	20,146,538	6,197,660	76.5%	

## 支出の部

科 目	予 算 額	実績額	差異	消化率	備 考
1. 管理費					
1.1 会議費	200,000	317,641	▲ 117,641	158.8%	
1.2 印刷製本費	30,000	0	30,000	0.0%	
1.3 通信運搬費	150,000	181,193	▲ 31,193	120.8%	
1.4 旅費交通費	100,000	106,450	▲ 6,450	106.5%	
1.5 人件費	3,000,000	1,648,153	1,351,847	54.9%	
1.6 消耗品・備品費	50,000	74,822	▲ 24,822	149.6%	
1.7 租税公課	0	106,237	▲ 106,237		
1.8 雑費	100,000	0	100,000	0.0%	
小計	3,630,000	2,434,496	1,195,504	67.1%	
2. 事業費					
2.1 第2回総合シンポジウム	1,500,000	712,130	787,870	47.5%	
2.2 技術シンポジウム	0	0	0		
2.3 横幹技術フォーラム	0	240	▲ 240		
2.4 学としての知の統合委員会	200,000	214,857	▲ 14,857	107.4%	
2.5 調査研究会	600,000	122,200	477,800	20.4%	
2.6 受託事業	9,500,000	7,161,433	2,338,567	75.4%	
2.7 プロジェクト請負活動	1,700,000	0	1,700,000	0.0%	
2.8 広報費	300,000	230,228	69,772	76.7%	
2.9 ロードマップ	500,000	186,394	313,606	37.3%	
2.10 会誌「横幹」	1,700,000	1,338,482	361,518	78.7%	
2.11 その他	500,000	0	500,000	0.0%	
小計	16,500,000	9,965,964	6,534,036	60.4%	
3. 予備費					
3.1 予備費	6,214,198	0	6,214,198	0.0%	
小計	6,214,198	0	6,214,198	0.0%	
支出合計 (B)	26,344,198	12,400,460	13,943,738	47.1%	
収支差額 (A-B)	0	7,746,078			

## 2008(平成20)年度貸借対照表

2009年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	255,767		
預 金	3,843,998		
未 収 金	7,346,550		
立 替 金	46,385		
仮 払 金	0		
流動資産合計		11,492,700	
2. 固定資産			
什器備品	0		
基 金	1,000,000		
固定資産合計		1,000,000	
資産合計			12,492,700
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金	3,548,732		
前 受 金	0		
預 り 金	11,890		
借 入 金	0		
仮 受 金	45,000		
内部仮受け金			
引 当 金	141,000		
流動負債合計		3,746,622	
2. 固定負債		0	
負債合計			3,746,622
III. 正味財産の部			
正味財産			8,746,078
負債および正味財産合計			12,492,700

2008(平成20)年度横幹連合会計 利益処分案

(単位：円)

2008(平成20)年度収支差額	¥7,746,078
利益処分案	
2009(平成21)年度会計への繰越	¥7,746,078

以上

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合の平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日にいたる会計年度の収支明細と現預金残高について、書類に基づき会計監査を行った結果、適正に会計処理されており、別紙収支計算書および現預金残高は事実と相違ないことを確認しました。

また、同年度の理事会に出席して業務監査を行い、理事会の議事運営が規約に則り適正に行われていたことを確認しました。

横断型基幹科学技術研究団体連合の監査結果を以上のとおり、監事として署名・押印して報告します。

平成 21 年 4 月 日

特定非営利活動法人 横断型基幹科学技術研究団体連合

監事 印

(木村 忠正)

監事 印

(藤井 眞理子)



## 2009(平成21)年度横幹連合予算

(単位：円)

科 目	予算額	前年度実績	対前年度実績差異	備 考
収入の部				
1. 会費収入	2,270,000	2,440,000	▲ 170,000	
2. 民間補助金	500,000	100,000	400,000	
3. 繰越金	7,746,078	8,954,198	▲ 1,208,120	
4. 事業収入	7,130,000	8,456,850	▲ 1,326,850	
受託事業	4,000,000	7,340,550	▲ 3,340,550	
プロジェクト	1,000,000	0	1,000,000	
参加費・広告費	1,800,000	810,000	990,000	
会誌	290,000	306,300	▲ 16,300	
その他	40,000	0	40,000	
5. 繰入収入	0		0	
6. 雑収入	90,000	195,490	▲ 105,490	
7. 引当金繰り入れ	0	0	0	
収入合計 (A)	17,736,078	20,146,538	▲ 2,410,460	
支出の部				
1. 管理費				
1. 1 会議費	280,000	317,641	▲ 37,641	
1. 2 印刷製本費	20,000	0	20,000	
1. 3 通信運搬費	150,000	181,193	▲ 31,193	
1. 4 旅費交通費	154,000	106,450	47,550	
1. 5 人件費	2,650,000	1,648,153	1,001,847	
1. 6 消耗品費・備品費	280,000	74,822	205,178	
1. 7 租税公課	60,000	106,237	▲ 46,237	
1. 8 雑費	100,000	0	100,000	
小計 (k)	3,694,000	2,434,496	1,259,504	
2. 事業費				
2. 1 第2回総合シンポジウム/第3回コンファレンス	1,500,000	712,130	787,870	
2. 2 技術シンポジウム	0	0	0	
2. 3 横幹技術フォーラム	100,000	240	99,760	
2. 4 学としての知の統合委員会	100,000	214,857	▲ 114,857	
2. 5 調査研究会	300,000	122,200	177,800	
2. 6 受託事業	3,500,000	7,161,433	▲ 3,661,433	
2. 7 プロジェクト請負活動	700,000	0	700,000	
2. 8 広報費	300,000	230,228	69,772	
2. 9 ロードマップ委員会	0	186,394	▲ 186,394	
2. 10 会誌「横幹」	1,670,000	1,338,482	331,518	
2. 11 その他	650,000	0	650,000	
小計 (j)	8,820,000	9,965,964	▲ 1,145,964	
3. 予備費			0	
3. 1 予備費	5,222,078	0	5,222,078	
小計 (y)	5,222,078	0	5,222,078	
支出合計 (B = k + j + y)	17,736,078	12,400,460	5,335,618	
収支差額 (A - B)	0	7,746,078	▲ 7,746,078	

# 経営高度化プロジェクト報告

統計数理研究所  
リスク解析戦略研究センター  
筑波大学大学院ビジネス科学研究科  
椿 広計

2009/4/20

横幹連合総会資料

## 2008年8月

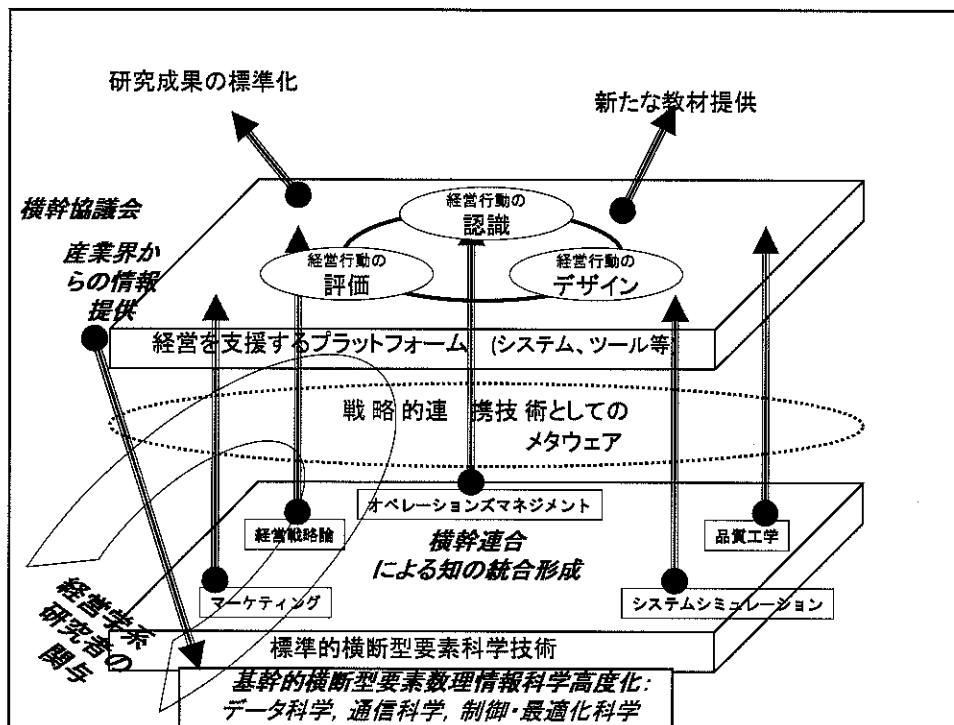
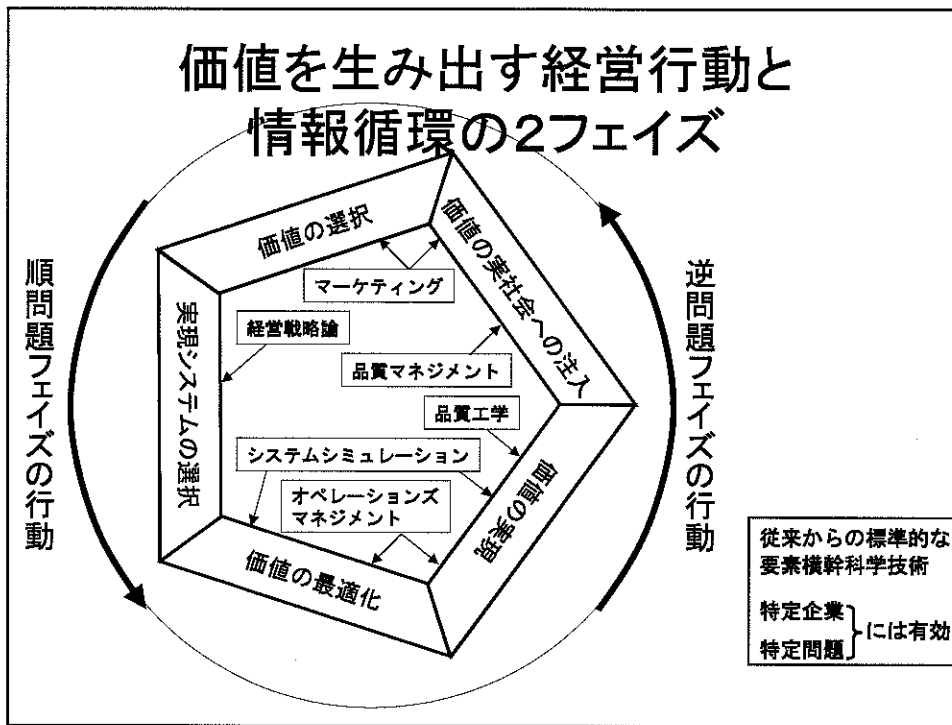
### 横幹連合・横幹協議会の意見交換

- 横幹フォーラム「経営の高度化に向けての知の活用」開催を通じて、「経営高度化」に資する横幹連合内研究プロジェクト立ち上げ
- 一連のフォーラム開催趣旨
  - 持続性重視への転換、その中での先進国／新興国の相互関係、今後ますます深刻化する資源の制約、人間の発展欲望と規制のバランス、多様な信条・価値観の共存など、現代社会の抱える課題は極めて複雑化しており、多様な知を結集しなければ解を見出すことは不可能である。
  - これに伴って企業の経営環境も大きく変化してきており、今後もさらなる変化が予測される。
  - 経営の最終的判断は経営者の決断に委ねられるとしても、高度な経営判断を支援する各種の分析・予測技術の必要性は急増するであろうし、その種の経営支援技術の高度化も肝要であろう。
  - このフォーラムでは今後の経営判断の体制検討に役立てていただくことを願い、今後数回に渡り、経営の高度化を支援する工学系・人文社会学系分野の知を紹介し、その統合の道筋も議論してゆきたい。

2009/4/20

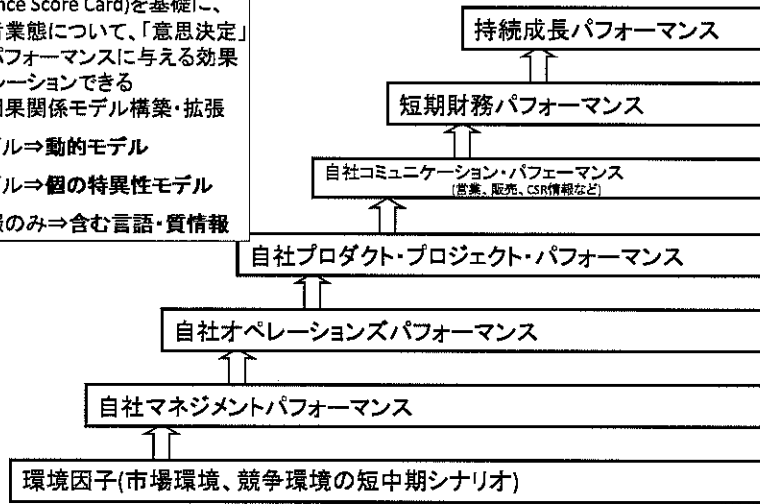
横幹連合総会資料

# 価値を生み出す経営行動と 情報循環の2フェーズ

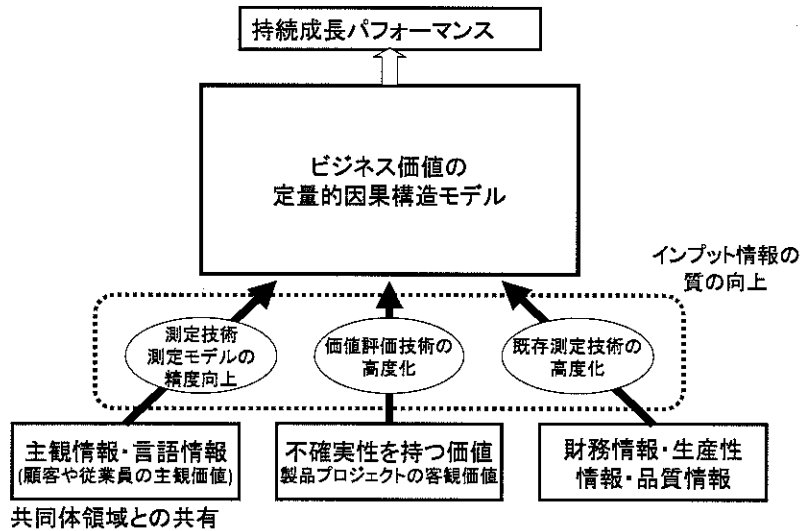


## 調査研究Project 1: 価値が生まれる因果階層構造モデル

BSC(Balance Score Card)を基礎に、  
特定業者業態について、「意思決定」  
が財務パフォーマンスに与える効果  
をシミュレーションできる  
定量的因果関係モデル構築・拡張  
静的モデル⇒動的モデル  
集団モデル⇒個の特異性モデル  
定量情報のみ⇒含む言語・質情報

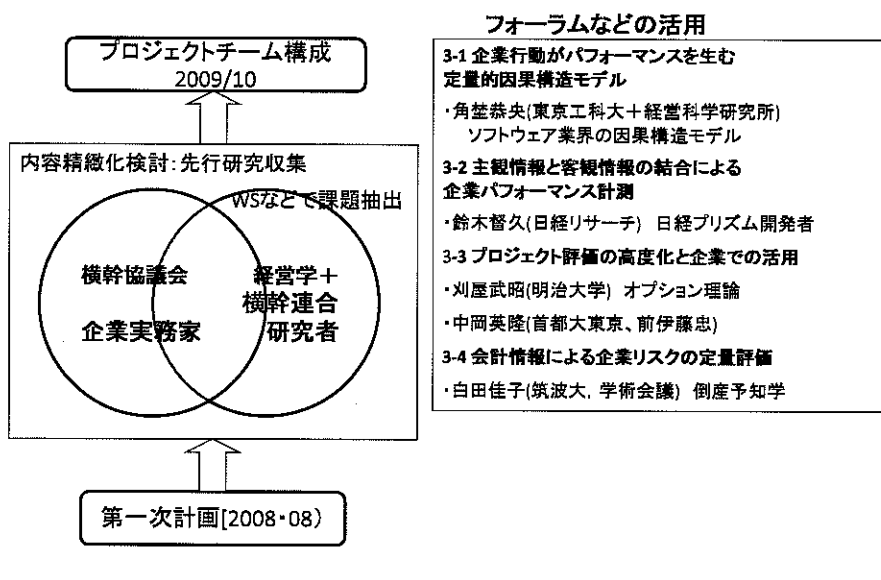


## 調査研究Project 2: 価値計測モデル: 社会設計科学に活用可能



## 初期構想

### 横幹連合＋経営系研究者⇔横幹協議会



## 2回のフォーラム実施

- 第1回企業パフォーマンスを評価する
  - 2009年1月7日13時10分ー17時30分: 学士会館
  - 開会挨拶: 桑原 洋(横幹技術協議会 会長)
  - ◆基調講演「財務データ及び非財務データによる「危ない会社」の評価方法」
    - 白田 佳子(筑波大学教授、日本学術会議会員)
  - ◆講演1「日経プリズムにおける「優れた会社」の評価方法」
    - 鈴木督久(日経リサーチ取締役)
  - ◆講演2「ソフトウェア産業におけるコア・コンピタンスと経営パフォーマンスの因果構造」
    - 角埜恭央(東京工科大学教授)
  - ◆パネル討論
  - 閉会挨拶: 木村 英紀(横幹連合 会長)

## 第2回エンタープライズ リスクマネジメント

- 2009年3月30日筑波大学東京キャンパス
- 13時30分～16時40分
- 開会挨拶 桑原 洋(横幹技術協議会 会長)
- ◆基調講演「エンタープライズリスクマネジメントの  
新たな潮流」
- 刈屋 武昭(明治大学)
- ◆講演「リアルオプションによる資源開発事業評価と  
ERM」
- 中岡 英隆(首都大学東京) (15:20～15:30 休憩)
- ◆パネル討論と総合質疑
- 閉会挨拶 木村 英紀(横幹連合 会長)

2009/4/20

横幹連合総会資料

## 今後の計画

- 新たな状況
  - 白田教授の提言
    - 学術会議第一部・第三部での協業
  - 日本経営工学会の積極関与開始
- これまでのまとめ
  - Key Performance Indicatorsとその関係性モデル構築の鮮明に打ち出した経営ツールが、カプラン・ノートンのバランスト・スコア・カード(BSC)
  - BSCを適切に評価し、経営環境要因を十分取り込める形にし、実際のビジネスの予測モデルとして位置づけられるものに発展
  - →必要な経営シミュレータの第一次案
- 今後の活動予定
  - 第3回「経営構造化のツールとしてのBSC」7月予定
  - 第4回「BSCをどのように発展させるべきか」9月第1週目
    - 今後の計画を展望
  - 日本経営工学会を幹事学会とする研究会を連合に設置
  - WS その後
  - 科研費申請 10月
  - 振興調整費申請 H22.2月

2009/4/20

横幹連合総会資料